



平成 24 年 10 月 12 日

港湾局産業港湾課

第 13 回北東アジア港湾局長会議ならびに 第 13 回北東アジア港湾シンポジウムの開催結果について

平成 24 年 10 月 8 日(月)～10 月 9 日(火)の間、第 13 回北東アジア港湾局長会議および第 13 回北東アジア港湾シンポジウムが開催されました。

1. 第 13 回北東アジア港湾局長会議

ボーダレス化する世界経済において、国際物流は重要なテーマとなっている。特に世界の工場といわれている東アジア地域が世界の物流を牽引するまでになっており、その中心となる日中韓の港湾局長等が、10 月 8 日に集まり、第 13 回北東アジア港湾局長会議を北海道小樽市で開催した。会議では、まず各国の代表から三カ国の港湾行政に関する報告があり、活発な意見交換が行われた。また、これまで 3 年間にわたり各国の専門家が参画する「共同研究 WG」にて取り組んできた「持続可能な発展のための港湾グリーン戦略」、「北東アジア地域における地球温暖化を考慮した沿岸防災策」について取りまとめが行われるとともに、その成果については、今後、APEC 等の国際会議において情報提供を行うことを合意した。

さらに、実務者会合の三つのテーマについて中間報告が行われるとともに、実務者会合と共同研究 WG の進め方を議論し、より実効性の高い枠組みに統合した。新しい枠組みとなった「作業部会」では、昨年から検討が始まっている「北東アジアにおけるシャーシの相互通行の促進」、「北東アジアにおけるマリーナネットワークの構築」、「港湾料金制度の研究」について引き続き検討が進められるとともに、「北東アジアの海上コンテナ輸送における RFID 活用の促進」が新たに検討テーマに加わることとなった。

なお、北東アジア港湾局長会議は、1995 年から 1999 年の間、年 1 回開催された日韓港湾局長会議をベースに、2000 年より中国が加わり拡大したもので、今回で 13 回目。

2. 第 13 回北東アジア港湾シンポジウム

局長会議翌日の 10 月 9 日には、第 13 回北東アジア港湾シンポジウムが北海道札幌市で開催され、日中韓の官民の港湾関係者約 250 名が集まり、「港湾における地球温暖化対策」及び「港湾開発・利用と地域振興」をテーマに三カ国の研究者から発表があり、その後発表者と参加者による熱心な質疑がなされた。さらに、特別講演として中松義治小樽市長から国際クルーズに関する発表があった。

【問い合わせ先】国土交通省港湾局産業港湾課国際企画室 山本、木原
(代表)03-5253-8111 (直通)03-5253-8679 (内線)46464、46462 (FAX)03-5253-1651

第13回北東アジア港湾局長会議

(10月8日(月) 北海道・小樽市、新日本海フェリーターミナル)

出席者

- 日本(国土交通省港湾局長 山縣 宣彦をはじめ8名)
- 韓国(国土交通海洋部釜山港建設事務所 金 榮福所長をはじめ11名)
- 中国(交通運輸部水運局 智 広路副局長をはじめ7名)

主要議事

(ア) 日韓中の3国間での最近の港湾行政に関する情報交換

発表者:

日本) 国土交通省港湾局長 山縣 宣彦: 港湾における東日本大震災からの復旧・復興への取り組み状況と今後の地震・津波対策

韓国) 国土交通海洋部釜山港建設事務所 金 榮福所長: 都市と港湾の融合的な開発について

中国) 交通運輸部水運局副局長 智 広路副局長: 港湾の管理・運営状況報告

(イ) 共同研究WG3年目の最終報告

WG1: 持続可能な発展のための港湾グリーン戦略

～排出ガスの削減とエネルギー効率の向上～ (日中韓共同)

WG2: 北東アジア地域における地球温暖化を考慮した沿岸防災策 (日韓共同)

なお、共同研究の成果については、今後APEC等の国際会議において情報提供を行うことを合意した。

(ウ) 今後の共同研究WGの進め方

実務者会合と共同研究作業部会を統合し、新たな「作業部会」を設置した。ここでは行政的課題と研究的課題を分けて検討していた従来の体制を見直し、必要に応じて行政関係者及び研究者がともに参画する専門家サブグループを形成することとなった。新たな「作業部会」のテーマとしては、以下のとおり合意した。

- ・北東アジアにおけるシャーシ相互通行の促進(日本提案)
- ・北東アジアにおけるマリーナネットワークの構築(韓国提案)
- ・港湾料金制度の研究(中国提案)
- ・北東アジアの海上コンテナ輸送におけるRFID活用の促進(中国新規提案)

議事録署名

上記内容について3国間で署名した。

今後の予定

来年、第14回北東アジア港湾局長会議を韓国で、課長級会議を中国で開催予定。

第13回北東アジア港湾シンポジウム

(10月9日(火) 北海道・札幌市、札幌プリンスホテル)

主催

北東アジア港湾シンポジウム実行委員会、国土交通省港湾局

参加者

日中韓の官民の港湾関係者合わせて約250名(日本側 約180名、中国側 約30名、韓国側 約40名)

プレゼンテーション

○第1部「港湾における地球温暖化対策」

- ・事例発表1 韓国：釜山港湾公社 室長 鄭 炫暎 氏「釜山港のグリーンポート戦略」
- ・事例発表2 中国：中国交通運輸部科学研究院 副技師長 徐 萍 氏「低炭素輸送システム構築による港湾におけるエネルギー保存と排出抑制」
- ・事例発表3 日本：北海道工業大学 教授 白石 悟 氏「日本の港湾における風力発電の動向」

○第2部「港湾開発・利用と地域振興」

- ・事例発表4 韓国：韓国海洋水産開発院専門研究員 金 槿攝 氏「港湾開発・利用と地域振興」
- ・事例発表5 中国：中国交通運輸部水運科学研究院 副研究員 謝 燮 氏「海上輸送網の地理的な展開」
- ・事例発表6 日本：城西国際大学経営情報学部 客員教授 神田 正美 氏「今後の地域振興を支える地方港湾ネットワークのあり方」

○特別講演「北海道と北東アジア地域との国際クルーズの振興に向けて」

- ・講演者：小樽市長 中松義治 氏



第13回北東アジア港湾局長会議(10月8日開催)
(左から、韓国釜山港建設事務所長、日本山縣港湾局長、中国智水運局副局長)



第13回北東アジア港湾シンポジウム(10月9日開催)